
(2) 漁獲状況調査と市場価格について

(橋本佳樹)

セタシジミの漁獲の現況と、市場動向の実態を把握するために実施した。

方 法

県内の貝採捕漁業者に対し、1991年1月1日より12月31日まで漁獲日誌（依頼した貝採捕漁業者および漁獲日誌の内容については漁獲の現況調査参照）への記載を依頼した。

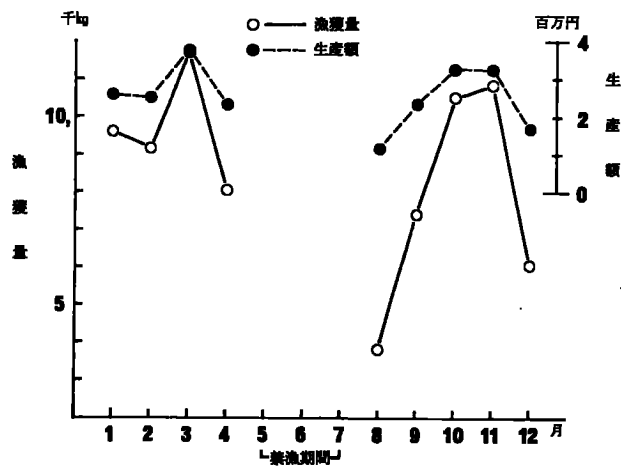
結果および考察

組合別に月別漁獲量と生産額を表I-3に示した。調査した漁業者10人の1～12月までのセタシジミの漁獲量は、1人1回あたり5～380kgと個人間および組合間の差が激しい。調査した9ヵ月間の総漁獲量は約77t、生産額は約2,300万円であった。昨年度より漁獲量で7t、生産額で100万円減少しているが、これは調査を依頼した堅田組合員の1人が例年と異なり8月以後操業しなかったためと考えられる。しかし、漁獲量に比較して生産

額の減少が少なかったのは、単価の上昇による。

県下貝採捕漁業の中心組合である堅田漁業協同組合は、9ヵ月で約54tの漁獲で、1,500万円の生産額を揚げている。これは調査した総漁獲量の70%、総生産額で66%を占めている。前述したように8月以降1名欠員があったにもかかわらず、昨年度を上回る割合を占めたのは当組合員の1人あたりの漁獲量の多さを物語っている。

抽出組合員各人の漁獲量とその生産額の経月変化を図I-4に示した。漁獲量と生産額ともに最も多い月は、昨年11月と異なり3月となったが、それは8月以降1名休業したためである。しかし、禁漁期間をはさんで前半は3月、後半は11月に量、額共にピークがくるという傾向は昨年と同様であった。



図I-4 平成3年度抽出組合のセタジミ漁獲量および生産額の経月変化

表 I-3 平成3年1月~12月分 組合別セタシジミ水揚高と単価

組合	調査した 漁業者数	年度	1 月 分		2 月 分		3 月 分		4 月 分		8 月 分	
			漁獲量 (kg)	生産額 (円)	漁獲量 (kg)	生産額 (円)	漁獲量 (kg)	生産額 (円)	漁獲量 (kg)	生産額 (円)	漁獲量 (kg)	生産額 (円)
堅 田	4人	'91	7,978	2,017,940	8,013	2,140,760	9,990	3,185,300	5,403	1,528,210	1,588	410,780
中 主	1人	'91	—	—	—	—	557	167,100	574	172,200	—	—
近江八幡	1人	'91	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
松 原	3人	'91	852	281,160	148.5	48,975	172.5	56,925	1,004	331,320	1,575	519,430
沖 島	1人	'91	836.5	250,950	1,021	306,300	1,068	320,400	1,116	334,800	677	223,410
計	10人	'91	9,666.5	5,550,050	9,182.5	2,496,035	11,787.5	3,729,725	8,097	2,366,530	3,840	1,153,620

9 月 分	生産額 (円)	漁獲量 (kg)	1 0 月 分		1 1 月 分		1 2 月 分		合 計		単 価 円/(kg)
			生産額 (円)	漁獲量 (kg)	生産額 (円)	漁獲量 (kg)	生産額 (円)	漁獲量 (kg)	生産額 (円)	漁獲量 (kg)	
4,288	1,331,170	5,998	1,721,070	6,424	1,718,800	4,096	1,031,300	53,788	15,085,330	133~400	
672	189,900	708	212,400	534	160,200	—	—	3,045	901,800	300	
—	—	1,810	633,500	1,185	414,750	—	—	2,995	1,048,250	350	
1,629	548,575	1,394	484,530	1,372	479,500	1,217.5	425,225	9,364.5	3,175,640	292~462	
814	268,620	622	196,260	1,358	448,140	730	234,500	8,242.5	2,583,380	250~330	
7,413	2,388,265	10,532	3,247,760	10,873	3,221,390	6,043.5	1,691,025	77,435	22,794,400	平均305	

次に、セタシジミ以外の利用される貝類について、出漁日数、種類、および漁獲量を図 I-5~8、表 I-4~7 に示した。

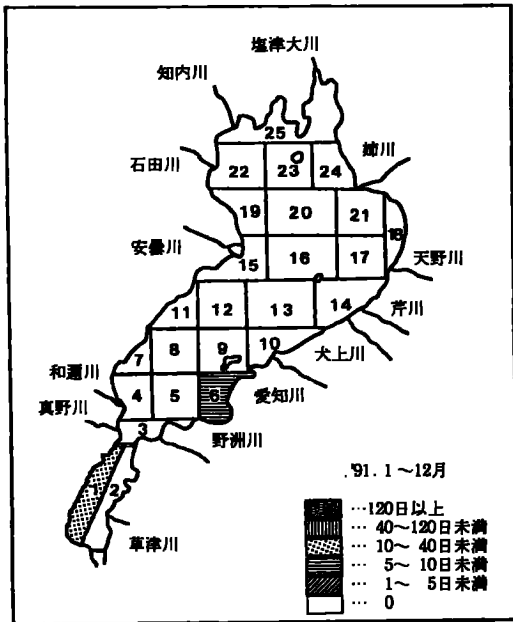


図 I-5 タテボシ漁獲出漁状況調査。
図中の数字は水域のナンバーを示している。

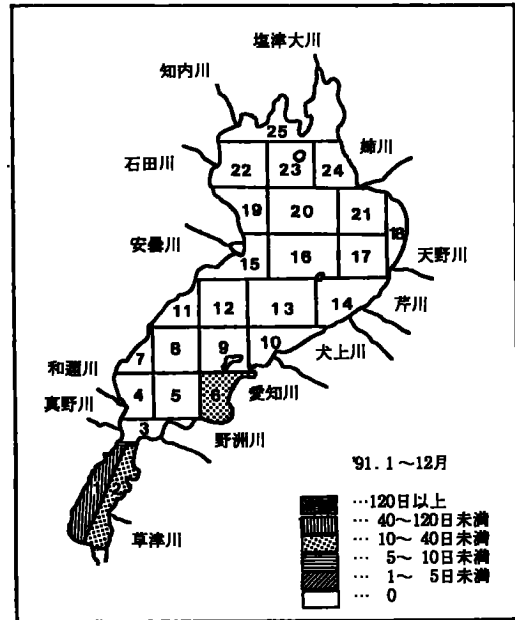


図 I-6 マルドブガイ漁獲出漁状況調査。
図中の数字は水域のナンバーを示している。

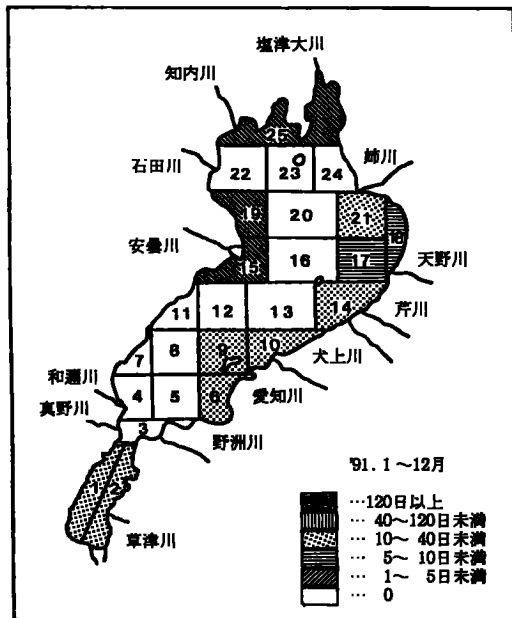


図 I-7 イケショウガイ漁獲出漁状況調査。
図中の数字は水域のナンバーを示している。

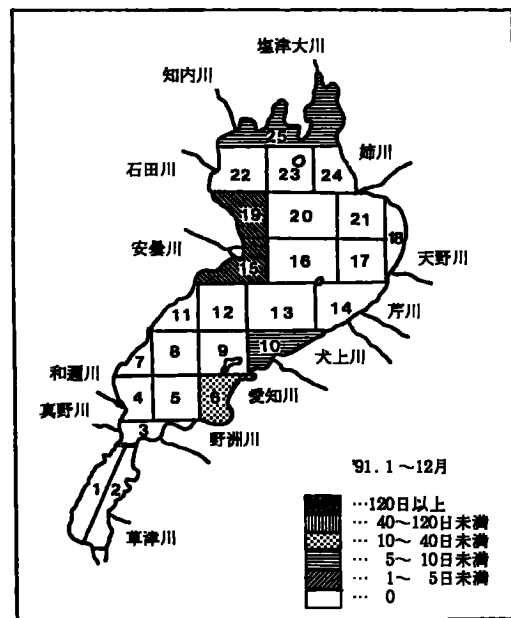


図 I-8 タニシ漁獲出漁状況調査。
図中の数字は水域のナンバーを示している。

タテボシは昨年度より出漁日数は6日減少しているが、総漁獲量は約100kg増し、資源の増加が示唆された。一方マルドブガイが昨年度より出漁日数、総漁獲量共に半減しているのは、この貝を主に漁獲している漁業者が8月以降操業しなかったためである。イケチョウガイは漁獲個数がほぼ半減し、タニシは漁獲量が、6.5倍であった。

表I-4 平成3年1月～12月 水域別タテボシ水揚高
(調査した漁業者数10人)

操業水域No.	延出漁日数	漁獲量 (kg)	生産額 (円)
1	21	1,166.5	268,315
2	14	1,238	379,700
6	26	738	169,740
9	33	1,320	356,370
10	30	798	215,720
14	10	153.2	45,280
15	3	32	8,960
17	7	230	54,200
18	7	317	60,750
19	2	18	5,040
21	11	320	86,400
25	2	23	6,290
計	166	6,353.7	1,665,765

表I-5 平成3年1月～12月分 水域別マルドブガイ水揚高
(調査した漁業者数10人)

操業水域No.	延出漁日数	漁獲量 (kg)	生産額 (円)
1	45	3,464.2	785,080
2	14	1,950	498,660
6	11	109	21,800
計	70	5,523.2	1,305,540

表I-6 平成3年1月～12月 水域別イケチョウガイ水揚高
(調査した漁業者数10人)

操業水域No.	延出漁日数	漁獲量 (個)	生産額 (円)
1	36	120	—
6	5	6	—
計	41	126	—

表I-7 平成3年1月～12月 水域別タニシ水揚高
(調査した漁業者数10人)

操業水域No.	延出漁日数	漁獲量 (kg)	生産額 (円)
6	10	21.9	28,700
10	6	11.3	16,950
15	4	21	31,500
19	2	7	10,500
25	8	128.3	192,450
計	30	189.5	280,100